

偶 感

NHKが、農業経営者の意識について調査した“日本の農業”を読んで感銘を受けました。農薬の使用について「ある程度やむを得ない」としている生産者が、略々90%を占めているのは当然として、最もわが意を得たのは、稲作中心、複合型何れの場合にも70～80%の人が“農業が好き”と答えている点でした。機械化が進んだとはいえ、やはり一見単調で苦勞な作業の繰り返しですが、生産者にしてみれば、そこに何か魅力があってこそその毎日であることを、このデータは語っている。それは、何よりも相手が生命あるものだという事、また汗を流しただけの成果が目に見えて得られるという、生産者冥利につきる点ではないでしょうか。単純な農作業の繰り返しではあっても、扱う生きものの刻々の変化を五感で感じながら管理していく喜びでもある処が“農作業が好き”となる所以ではないかと思います。

吾々、農薬の生産開発に携わる者は、まず、この栽培者の気持を理解しなければなりません。というより、自ら農業が好きでなければならぬのだと考えます。農薬が使用される農作業の場面が好きでなくては、真に愛される製品、使用方法等を創り出すことは無理な相談なのではないでしょうか。

これからの植物防疫は“科学的総合防除”への提言がなされますが、品種改良から栽培の段階夫々の農作業に密着し、とけこんだ新しい安全農薬こそ、確かに80年代、あるいは90年代の新農薬開発に課せられた目標ではないかと思っています。そして、真に農業を愛する人によってこそ、これらの農作業にとけこんだ“これから

目 次 (第14巻第9号)

除草剤・生育調節剤と農業生産エネルギー……………	2
＜全農農業技術センター 永江祐治＞	
1. 農業生産エネルギー……………	3
2. 農業生産における農薬使用エネルギー……………	3
3. 不耕起ないし省略栽培による省エネルギーと除草剤の役割……………	6
4. 石油植物への植物生長調整剤の利用……………	9

外国文献抄録

ワタと雑草……………	11
------------	----

昭和54年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績概要〔追補〕……………	14
--------------------------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

1. CaCO_3 水和剤……………	15
2. AXF-1072 液剤……………	15
3. J-455 乳剤……………	15

新除草・調節剤

• 植物成長調整剤(カルパー粉剤)……………	16
• 2,4PA・DCMU・DPA 除草剤……………	17

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕

の農薬”の開発は可能なのだと信じます。

〔財団法人日本植物調節剤研究協会理事
日本化薬株式会社取締役農業事業部長 石井潤一〕